

英語 Here We Go! 相談室 教育

特集

1人1台端末、どう活用する？

Let's enjoy! Small Talk

季節・行事

子どものためのBOOK GUIDE

TAKE ME OUT TO THE YAKYU

“学びをワクワクさせるのは
デジタル教科書だ”



好評
発売中

光村図書 デジタル教科書
& デジタル教材

商品
ラインナップ

◆令和2年度版小学校教科書準拠

— 学習者用デジタル教科書[ユーザーライセンス]

Here We Go! 5・6 各550円

— 学習者用デジタル教科書+教材[ユーザーライセンス]

Here We Go! 5・6 各990円

— 指導者用デジタル教科書(教材)[学校フリーライセンス]

Here We Go! 5・6 各20,900円(1年間利用)

◆令和3年度版中学校教科書準拠

— 学習者用デジタル教科書+教材[ユーザーライセンス]

Here We Go! ENGLISH COURSE 1-3

各990円

— 指導者用デジタル教科書(教材)[学校フリーライセンス]

Here We Go! ENGLISH COURSE 1-3

各82,500円/27,500円(1年間利用)

— 小学校英語デジタル教材 マスターシリーズ[学校フリーライセンス]

アルファベットマスター 27,500円/8,800円(1年間利用)

リズムマスター 27,500円/8,800円(1年間利用)

ワードマスター 27,500円/8,800円(1年間利用)

▼▼▼ 詳しい商品情報ははこちら ▼▼▼

光村図書 デジタル



英語 Here We Go! 相談室
教育 | No. 10 |

2022年4月30日発行

発行人 ● 吉田直樹

発行所 ● 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話 ● 03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp

E-mail ● koho@mitsumura-tosho.co.jp

デザイン ● Better Days (大久保裕文+深山貴世)

イラスト ● 小林マキ

印刷所 ● 株式会社 加藤文明社

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

広報誌の配送停止のご希望は、光村図書出版までご連絡ください。



光村図書



What's
this?

from
Malaysia



にょっきりと伸びた緑色の茎のようなものの先に、重そうな赤紫色のつぼみ。その、根元に近い方を見ると、薄緑色の小さな実がなっています。そう、これはバナナの花です。

つぼみのように見えるふくらみの赤紫色の部分は苞^{ほう}といい、バナナの花を包んでいます。花が咲くのはほんの1週間ほど。苞がだんだんめくれていき、中から白くて細長い、小さな花が顔をのぞかせます。

マレーシアやタイ、カンボジアなど東南アジアの市場では、「バナナの花」として、この苞に包まれた部分が売られています。野菜の一種として食べるため、苞を一枚一枚むいた中から出てくる白い芯を油で揚げたり、スープに入れたりして食べます。たけのこに似た、しゃきしゃきとした食感が楽しめるようです。

川崎典子／マレーシア・クアラルンプール在住 海外書き人クラブ会員

写真のダウンロードは
こちらから



他にも、「バナナの花」
が売られている様子が
わかる写真などを用意
しました。授業などに
ご活用ください。



英語 Here We Go! 相談室 教育

2 0 2 2
| No.10 | C O N T E N T S

What's this?
バナナの花
<from Malaysia>

特 集

02 1人1台端末、どう活用する?

04 [小学校]

実践紹介1
手段は変化しても変わらない学び
阿部志乃

実践紹介2
「ロイロノート」を活用した外国語の実践
村岡美奈子

08 [中学校]

実践紹介
1人1台端末
まずは使うことを「目的」に
森 尚生

授業レポート
「学習者用デジタル教科書+教材」を
活用した授業
「個別最適な学び」を実現
神奈川県横浜市立丸山台中学校

13 ICT(いつも・ちょっと・トラブル)を
生きた学びに
中川右也

連 載

14 Let's enjoy!
Small Talk [Lesson3]

季節・行事
窪田 遼

16 子どものための
BOOK GUIDE [第10回]

TAKE ME OUT TO THE YAKYU
金原瑞人

1人1台端末、どう活用 する？

GIGAスクール構想の実現に向け、学習者用端末の整備が急速に進んでいます。また、全国の小・中学校を対象に、英語の学習者用デジタル教科書の無償提供も行われています。本特集では、小学校・中学校それぞれの学習者用端末を使った授業実践を紹介しながら、英語の授業での効果的な活用方法を探っていきます。

Q.1

GIGAスクール構想の目的は何ですか？

A.1 ICTを駆使して、すべての子どもが「個別最適化された学び」の機会を得ることです。

GIGAスクール構想とは、令和元年12月に文部科学省が発表した教育施策で、多様な子どもたちを取り残すことなく、「公正に個別最適化」され、「資質・能力を一層確実に育成」できる教育ICT環境の実現を目ざしたものです。この新時代の学びを実現するために必要不可欠なのが、児童・生徒への1人1台端末や校内通信ネットワークなど環境面の整備と、デジタル教科書・教材などによる学びの充実、ICTを日常的に活用できるような指導体制の拡充などです。

Q.2

どのような端末が使われていますか？

A.2 Chromebook、Windows端末、iPadなど、全国でさまざまな端末が使われています。

令和3年10月に文部科学省が発表した調査資料(※)によると、全国の自治体に整備された端末に対するOSごとの割合は、Google Chrome OSが40.0%、Microsoft Windowsが30.9%、Apple iOSが29.1%でした。Chrome OSが搭載されたChromebookが、いちばん多く使われていることがわかります。OSが異なってもできることはほぼ同じですが、アプリ・ソフトウェアによっては対応OSが限定されていることもあるので、注意が必要です。

※「端末利活用状況等の実態調査(令和3年7月末時点)(確定値)」



Q.3

学習者用デジタル教科書は、どう使えばいいですか？

A.3 まずは、学習者用デジタル教科書の機能や利点を知りましょう。

全国の小・中学校を対象に、英語の学習者用デジタル教科書の無償提供が行われています。今年度からこれを使い始めて、活用のしかたに悩んでいるという先生もおられることでしょう。

学習者用デジタル教科書とは、紙の教科書の内容をデジタル化した教材であり、子どもたち一人一人の学習者用端末で使用します。内容は紙と同じですが、デジタル教科書だからこそできることが多くあります。

例えば、子どもたちそれぞれがデジタル教科書を使って、自分に合った速度で音声を再生したり、好きなタイミングで聞き返したりすることができます。また、書き込む、保存する、友達と共有するなど、学んだことを表現しやすくなることも、大きなポイントです。

まずは主体的な学習の入り口として、家庭学習を含めて、学習者用デジタル教科書を個別に活用できる時間を作ることを、考えてみてください。



学習者用デジタル教科書の詳しい説明や活用方法については、光村図書ウェブサイトをご覧ください。



p.6-12の実践紹介・授業レポートで使われているアプリなどについて (令和4年3月時点の情報)

- ロイロノート・スクール……株式会社LoiLoが開発した双方向授業支援アプリ(有料)。(p.6-7、p.8、p.10-11) 課題の作成、配布、提出、共有ができる。
- Google Classroom……Googleが開発した授業支援ツール(無料)。Google ドキュメント、Google フォーム、Google スライドなど、Googleのその他のサービスと組み合わせて使うことができる。(p.8)
- Google ドキュメント……Googleが開発した文書作成・編集ツール(無料)。(p.8) Microsoft Wordと同じような使い方で、文書の共有・共同編集ができる。
- Google フォーム(p.8)……Googleが開発したアンケート作成・実施・分析ツール(無料)。

※上記の名称は、株式会社LoiLo、Google LLC、米国Microsoft Corporationの商標です。

小学校 実践紹介1

手段は変化しても変わらない学び

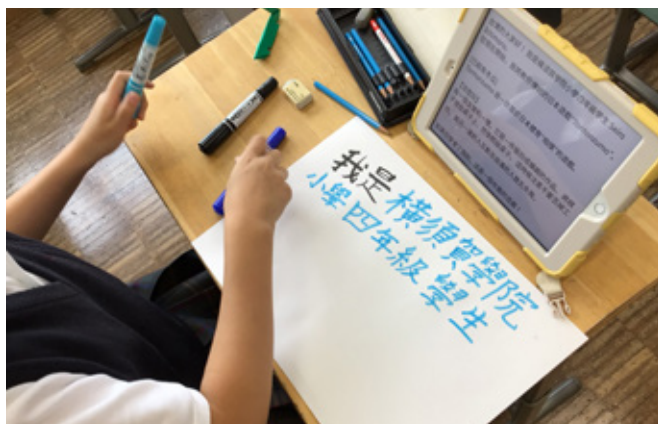
あべしの
阿部志乃 横須賀学院小学校 教諭(英語科・ICT教育担当)

本校では令和元年度に学校所有の共用iPadを使った学習を始め、令和3年度から全児童が個人用iPadを所持し、試行錯誤しながらよりよいICT教育を旨としています。ここではGIGAスクール構想が目ざす「公正に個別最適化された学び」と「創造性を育む学び」について考えます。

「公正に個別最適化された学び」を支えるもの

外国語学習の場合、音声や動画を通して英語に触れることは欠かせません。これまで授業で音声や動画を使用する際は、指導者用教材等を通して、教師がクラス全体に提示してきました。そのため、再生された内容を聞き逃した場合、授業時間以外で子ども自身がそれを聞き直すことは不可能でした。しかし、1人1台端末の整備により、音声や動画に子どもたちが直接アクセスできる環境が整いました。

例えば、『Here We Go!』の教科書では授業で使用するすべてのデータにQRコードでアクセスできるため、子どもたちは音声や動画を自由に再生することができます。授業では、まず各自で自由にデータにアクセスする時間を設け、その後、クラス全体で内容を確認します。教師主導で提示していたときよりも多少時間はかかりますが、子どもたちは自分のペースで内容を確認できます。また、聞き取れない部分を何度も繰り返して聞くことで、単語と音のつながり



機械翻訳を活用して、中国語で自己紹介文を書く児童。

に意識を向けたり、映像やジェスチャーからも情報を得るといった学習方略に自ら気がついたりできるようになったと感じています。

さらに、機械翻訳によって、英語を含めさまざまな外国語にも、子どもが自分でアクセスできるようになりました。以前、本校で台湾の小学生との交流を行った際、最初は英語で取り組ませていましたが、現地の言語を調べて使い始める子が出てきました。英語よりも、相手が使っている中国語(繁体字)に興味をもつのは、ごく自然なことです。子どもが自ら興味をもっている外国語を、「英語ではないから、使ってはダメ」と否定することは私にはできませんでした。「私には中国語はわからない、どうしよう」と思いつつも、中国語を使い始めた子どもたちを、英語を使っているのと同じように見守りました。幸いにも、機械翻訳の性能は、多くの方が「文章の自然さに驚いた」というほど進化していま

すし、訳文を音声で聞くこともできます。彼らは機械翻訳を使ってどんどん自分で作業を進め、耳で何度も聞いたり発音を練習するようになりました。まずは機械翻訳を使ってでも、子ども自身が「知りたい」と思った外国語に直接触れる経験は、外国語の独学につながるように思いました。

この「機械翻訳の活用」は、言語能力と同様に育成を図る必要がある「情報活用能力」の一つだと感じています。この経験以降、本校の国際交流活動では「何語を使うか」を子ども自身に任せています。

私が考える「公正で個別最適化された学び」は、「子どもたちが各自で好きなように、その時間の作業(学び)につながることに熱中している状態」です。外国語の聞き取り、画像や文字の読み取りのレベルはもちろん、興味がある外国語も、子どもによって異なります。「先生のタイミング」から「子ども自身のタイミング」で自由に情報にアクセスし、画像や言語を確認できるようになったことは、1人1台端末の大きな利点であり、まさに「公正に個別最適化された学び」を支えるものだと考えています。

「創造性を育む学び」を支えるもの

本校では、調べたことや発表の原稿など、自分自身で使う情報は、その子を取り組みやすく、後から自分で確認しやすい方法で記録することを試んでいます。文字を書くのが苦手な子は、これまでノートに思うように記録を残せませんでした。しかし今は、キーボード入力や音声入力、音声や写真・動画などさまざまな方法を通して記録を残せるようになり、今まで見ることができなかったその子の新たな一面を知るよい

機会が生まれたこともありました。

また、表現方法も、デジタル機器によって多様化しました。例えば手紙やポスターなど、手書きのほうが効果的な場合もありますし、デジタル機器を活用したほうが、写真や動画でリアルに伝えられる場合もあります。発表や作品作りにおいてもプレゼンテーションツールを使ったり、写真・動画・音声を組み込んだりできるようになり、子どもたちの作品に変化が生まれました。

もちろん文字を書く練習は欠かせませんし、紙に記録する方法を好む子もいます。手書きには「一点もの」という価値が生まれる一方、デジタルは「複製」しやすく配布や再利用が容易です。大切なのは、アナログ・デジタル両方の手法を子どもたちが体験し、経験を通してその特性を知り、場面に応じて選択しながら自分の方法を創意工夫していくことです。教師が選び、材料や手順を設定するのではなく、子どもが選択権をもち、自由に試行錯誤できる状態が「創造性を育む学び」につながると考えます。

「子どもの選択や決定を授業の中でどこまで許し、認めることができるか」について、私自身、とても悩みました。初めは「大丈夫だろうか」と心配になり、作業の途中で介入したこともありましたが、今は「どうにかなる」と最後まで子どもたちに任せ、うまくいったことも失敗もすべて「(結果として)学んだのであればOK」としています。そして、その過程で子どもが見せる創造力と工夫に日々驚かされています。「教師側の意識変革」、これがGIGAスクール構想において最も大きな鍵になるのではないかと、私が経験を通して強く感じたことでした。

「ロイロノート」を活用した外国語の実践(5年)

むら おか み な こ
村岡美奈子 東京都世田谷区立池之上小学校 指導教諭

コロナ禍において、小学校では1人1台の端末環境が急速に実現していきました。その中で、世田谷区では、「ロイロノート・スクール」(以下、ロイロノート)という授業支援アプリを活用しています。導入された当初は、名前も聞いたことがなく、何をどう使うのかもわからないものでしたので、使いこなせるか不安でした。ところが、実際に使い始めると、さまざまな教科や学校生活の場面で活用することができています。

今回は、5年生の外国語の授業ではどのようにロイロノートを活用しているかをご紹介します。単元は、『Here We Go!』5のUnit6 I want to go to Italy. です。

十分に英語を聞く活動を

以下が、大まかな単元指導計画です。

時	単元指導計画
1	七大州、三大洋の言い方を知る。
2	日本と同じ緯度や経度の国を探す。
3	赤道にある国を探す。
4	面積の大きな国、小さな国を探す。
5	学区域のレストランマップを作る。
6	行きたい国を紹介する方法を知る。
7	行きたい国を紹介する練習をする。
8	行きたい国を紹介する。

この単元では、第6～8時にロイロノートを活用し、自分が行きたい国を紹介するプレゼンテーション活動を行います。

ここで大事なことは、プレゼン活動の前に、児童に英語を十分に聞かせることです。さまざまな活動を通して、第5時までに十分に英語を聞き、表現に慣れ親しむことで、英語のプレゼンのハードルがぐっと低いものとなるのです。

児童の創意工夫を生かして

第6時に、まずは教師がロイロノートを使って自分の行きたい国を紹介します。このアプリでは、テキスト機能を使うと、カードに文字を入力したり、画像を挿入したりすることができます。さらに、各カードを矢印でつなげてスライドにすることもできますので、作ったものを見せながら紹介することもできます。

教師が紹介してみせた後、まずは児童に、「行きたい国を紹介する」という活動を行うことを伝えました。第5時までに世界各国のことを英語で十分に聞いている児童は、「もう決めてるんだ!」「どっちにするか迷うなあ」など、活動への意欲をしっかりと高めているようでした。

次に、ロイロノートを使って発表原稿(スライド)を作ることを伝えます。教師が自分の行きたい国を紹介したスライドが、原稿の基本の型となっています。



発表に使用するスライド(基本の型)。

()の部分に文字を入力することで、簡単にスライドを作ることができるよう、この基本の型の6枚のカードを児童のロイロノートに送ります。受け取った児童は、早速、スライドを作り始めました。教師よりもiPadが使いこなせる児童は、文字の太さやフォント、色を変えたり、手描きペンで模様を付けたりしながら、スムーズに作っていきます。英語を書くことがまだまだ難しい児童にとっては、キーボードによる入力のほうが断然やりやすいのです。本校では、iPadを筆記用具のように使ってほしいという考えから、児童に端末を毎日持ち帰らせているので、授業中に作り切れなかったスライドの続きは家で考えることができます。

自信をもって発表するために

児童が作ったスライドは、ロイロノート上の「提出箱」とよばれるフォルダに、期日までに提出してもらいました。学級の児童の提出スライドが一覧になっているので、教師には誰が提出しているか一目瞭然でわかりますし、提出されたものからどんどん添削することができます。

第7時では、発表の練習をしたり、カードを

修正したりします。以前は、この時間になるとあちらこちらから「先生!」「先生!」と呼ばれ、個別対応に追われていました。しかし、今回は「音声録音」の機能を活用することで、これが一気に解決しました。ロイロノートでは、一枚一枚のカードに音声を付けることができるのです。発表時の音声入りの教師のスライドを事前に児童に送っているため、児童はそれを聞きながら、個人で練習を行うことができます。

第8時では、児童一人一人が発表を行います。活動後、児童は「英語で話せてうれしかった」「調べたら、もっとその国に行きたい気持ちが強くなった」「友達の行きたい国にも行きたくなった」などと振り返っていました。



スライドを使ったプレゼンテーション活動の様子。

児童にとって、まだ使い慣れない英語でプレゼンを行うことは至難の業です。しかし、その苦手意識をぐっと低くするためにロイロノートのようなアプリを活用することで、児童が英語を使って自分の考えを表現しやすくなったように思います。何よりも、プレゼンテーション活動の前に、その単元のキーワードやキーセンテンスとなる英語を十分に聞かせる時間を取ることが、大切だと考えています。

中学校 実践紹介

1人1台端末 まずは使うことを「目的」に

もり なお き
森 尚生 青森県弘前市中教研英語部会長・青森県弘前市立東目屋中学校 校長

弘前市は、平成25年から指導者用デジタル教科書を各校に配布し、授業で使用してきました。令和3年3月には、全生徒へのChromebookの配布も完了しています。英語の授業ではICT機器が早くから使われていたので、1人1台端末の活用も、他教科に比べるとスムーズに進んでいるのではないかと感じています。

1人1台端末の活用事例

市内の英語教員による四つの実践事例を紹介します。

事例1 ロイロノート・スクールで英作文

課題の英作文をロイロノートで提出させる。提出された英作文を教師が選んで拡大提示し、生徒に発表させる。提出状況が一覧でスクリーンに映し出されるので、生徒が授業に積極的に参加するようになること、また、提出した生徒が自分の間違いに気づきやすいことがメリットとなる。なかには提出後に手直しして、再度提出する生徒もいる。



ロイロノートで提出した英作文をスクリーンで共有。

事例2 Googleドキュメントと

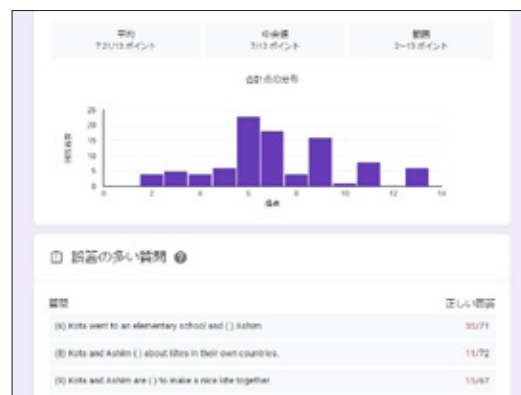
Google Classroomで英語レポート作成

Googleドキュメントで作成したレポートなどの課題をGoogle Classroom上で提出させる。写真などが簡単に添付できるので、よりわかりやすいレポートに仕上げるができる。また、紙媒体同様に添削して返却できるだけでなく、返却後も、教師がパソコン上でレポートを確認できるので、評価にも使いやすい。

事例3 Googleフォームを利用した

学習のまとめや確認テスト

Googleフォームを利用して、単語テスト、UnitやPartごとのまとめ、文法の確認テストを行う。課題は4択や記述式などを組み合わせて作成できる。Googleフォームは集計に手間がかからず、平均値や間違いが多かった問題などを確認することもできるので、テスト後の指導にも役立つ。



テスト結果の集計画面。
点数分布のグラフや誤答の多い問題などが自動表示される。

事例4 Chromebookで音読練習

教科書にあるQRコードを活用し、ヘッドフォンを使って音声を聞きながら、各自が音読練習をする。スピードの調整はできないが、重点的に練習したいところを自分のペースで練習することができるため、生徒には好評である。



苦手箇所を何度も聞き返しながら練習ができる。

実践事例に関して

1人1台端末の活用については、主に二つのアプローチが考えられます。一つは、「従来やっていた活動の方法をコンピュータに置き換えること」。もう一つは、「コンピュータでできることから活動を考えること」です。事例1・2・4は、どちらかといえば、前者の事例だといえます。事例3は、Googleフォームという便利なアプリを利用することで分析まで一瞬でできるという、付加価値のあるアプリ由来の後の活用例です。これらの事例から、ICTを活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」が実像となって見えてくるような気がします。

〈実践事例提供〉

- 事例1・2
弘前市立津軽中学校教諭 なが い つみ 永井 愛
- 事例3・4
弘前市立東中学校教諭 との さ き そう 外崎 聡

授業と家庭学習のつながりについて

本市では、まだ端末の持ち帰りは認められていませんが(令和4年3月現在)、いずれ可能になるでしょう。そうすると根本的に変わるのが、授業と家庭学習のすみ分けです。学校でなければできなかった活動が、家でもできるようになります。例えば、「Unit本文の動画を2回見ってくる」という課題を出せば「反転授業」のようなことができるでしょう。他にも、「新出単語を読めるようにする」「ベストな本文音読を録音してくる」といった音声面での宿題も考えられます。一分一秒でも多く英語に触れさせたいという英語教員の願いをかなえてくれる、夢のような学びです。

1人1台端末の活用に向けて

勤務校の授業を見て歩くと、生徒が机の上で端末を開いている授業が多くなってきました。英語の研究授業では、使用予定がないにもかかわらず生徒たちが端末を用意してしまっていたことがありました。慌てる教師を尻目に、生徒たちは、英作文の場面でスペルチェックのために端末を活用し、なかには翻訳機能を使う強者もいました。子どもたちのICTリテラシーは、私たちの予想をはるかに凌駕しています。

もちろんICT機器は「ツール」であり、その活用は「手段」にすぎず、「目的」ではありません。ただ、とにかく使ってみないと「手段」にさえならず、ホコリをかぶることになります。まずは使うことを「目的」に。これが我が校での合い言葉です。これまでの教育実践の蓄積とICTのベストミックスのためには、まずICTの比重を増やすことです。

中学校 授業レポート

「学習者用デジタル教科書+教材」を活用した授業

「個別最適な学び」を実現(1・3年)

神奈川県横浜市立丸山台中学校

令和3年度から全国の小・中学校に1人1台端末が配備され、学習者用デジタル教科書の活用も広がり始めている。「指導者用」に加えて「学習者用デジタル教科書+教材」(以下、学習者用デジタル教科書)が使われることで、英語の授業はどう変わるのか。昨年度から1人1台のChromebookとともにその活用を始めた横浜市立丸山台中学校の授業取材した。

授業1

もりしたさとし
森下智史先生

第3学年:Unit 7 Tina's Speech

一人一人が自分に適した学び方をする

“Tina's making speech because ____.”
“becauseの後を考えてみよう”。授業が始まって間もなく、森下先生はそう言って教室前方の大型モニターに1枚の絵を映し出した。教科書



学習者用デジタル教科書を開く生徒も、紙の教科書を開く生徒も。

の登場人物の一人で、ロンドンへ引っ越すTinaが、お別れのスピーチをする場面だ。教室を見渡すと、大型モニターを見る生徒もいれば、手元の教科書を見る生徒、Chromebookの画面を見る生徒もいる。学習者用デジタル教科書があることで、生徒一人一人が自分に適した方法で授業に臨んでいる様子がうかがえる。

先生は生徒たちに、最終的にはTinaのスピーチを暗記して発表してもらうことを伝えようと、まずは新出単語をマスターするよう指示。すると生徒たちは、学習者用デジタル教科書の「New Words」というコンテンツを開く。新出単語が日本語訳とともに並ぶ画面上で、まずはマスク機能を使って日本語を隠す。単語をタップすると流れる音声を聞きながら、生徒はそれぞれの学び方で単語をマスターしていく。



「New Words」の画面。

その後、森下先生は“Listen carefully.”と言い、教室前方の大型モニターを見るよう促した。Tinaのスピーチの実写ドラマが流れると、生徒たちは食い入るようにモニターを見ながら、Tinaの英語に耳を傾ける。スピーチは2分ほど続くが、集中が途切れている様子はない。

続いて先生は、スピーチがどんな内容だったか、わかったことを「ロイロノート・スクール」



本文ストーリーの動画(実写ドラマ)。

上で配布したワークシートに入力するように指示。その際は、もう一度実写ドラマを見てもよいとも伝えた。すらすらと文章を打ち込む生徒もいれば、ドラマを見直す生徒も、ドラマではなくスライドアニメを見て、音声だけに集中している生徒もいる。ここでも、生徒たちは自分に適した方法で、学びを進めていく。

授業が教師主導から生徒主導に変わる

学習者用デジタル教科書を活用するメリットは何なのか。授業終了後、森下先生は次のように語ってくれた。

「これまで、リスニングは大型モニターで流す形だったので、生徒たちは、教師が再生した回数だけしか聞けなかった。でも、学習者用デジタル教科書が入ったことで、それぞれが聞きたい回数だけ聞けるようになった。その結果、教師主導だった授業が生徒主導に変わった」。

新学習指導要領は、子どもたちを「自律的な学習者」にすることを目ざしているが、学習者用デジタル教科書はその実現のためのツールになりえると先生は指摘する。生徒たちは普段から、わからない単語があるとウェブ翻訳ツールで調べたり、教科書本文に戻って確認したりしているそうで、「一人一人が工夫しながら学ぶことが大事。これまで『教えていた部分』をな

るべく生徒自身が主体的に『学んでいく』形で、授業を組み立てている」という。

ところで、1人1台端末の利用に際しては、目の健康を懸念する声もある。この点について森下先生は、「黒板や大型モニターなども併用するなど、生徒たちが画面から目を離す時間を作るようにしている。コロナ禍が収まれば、ペアワークを増やすことによっても、画面を見る時間を減らしていきたい」と話す。

授業2

すみ ゆき え こ ばやし なお こ
角雪絵先生(T1)・小林直子先生(T2)

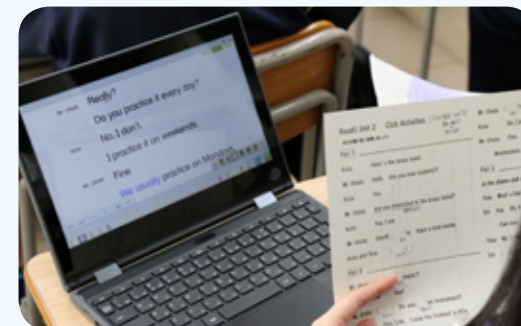
第1学年:Unit 2 Club Activities

36人が36とおりのやり方でReading

1年生の授業は、二人の先生によるTTでスタート。授業の前半は、角先生と小林先生が英語で生徒全員に問いかけ、それに生徒たちが答える形でテンポよく進んでいく。“Who is your favorite YouTuber?”など、1年生が好きそうな質問に、教室には時折、笑い声が響く。

“Please open your Chromebook!”

授業が中盤に差しかったところで、角先生が、各自の端末を開くよう指示。生徒たちは慣れた手つきで学習者用デジタル教科書を開くと同時に、紙のワークシートも用意。ワークシ



学習者用デジタル教科書と紙のワークシートを併用。

トには、いくつかの単語が穴空きになった
Unit 2の本文が書かれている。

先生はまず、学習者用デジタル教科書の「本文画面」で音声を再生しながらワークシートを読むように言う。すると生徒たちは、一斉にリスニングを始める。再生速度が選べるため、遅めの「^{マイナス}ー3」で聞く生徒もいれば、通常の「ふつう」で聞く生徒もいる。

続いての課題は、本文の音声を聞きながら、自身も登場人物の誰かになって一緒に読む「なりきりReading」。ここでは、穴空きが比較的少ないワークシートを用いても、学習者用デジタル教科書の「新出語マスク」や「ランダムマスク」の機能を使ってもよい。Readingが得意な生徒は、「全てマスク」の機能を使ってもかまわない。もちろん、再生速度も選択できる。

角先生は、「再生速度が速いほうがいいわけでも、マスクが多いほうがいいわけでもないからね。大切なのは、自分の力がいちばん高まる方法を選ぶことだよ」と生徒たちに伝える。その後、数分間は、教室にいる36人の生徒が36とおりのやり方で学びを進めていった。

最後に、代表の生徒4人によるロールプレイが行われたところで授業は終了。ListeningやReading、Speakingなど、内容盛りだくさんの50分間だった。



マスク機能や速度は、生徒が自分の学習状況に合わせて選択。

実現する「個別最適な学び」

学習者用デジタル教科書が入ったことのメリットについて、角先生は「指導の個別化」と「学習の個性化」が図られたことを第一に挙げる。「アナログの場合、穴空きワークシートを何種類も用意する必要があるが、デジタルでは『新出語』『ランダム』『全て』などから生徒が自由に選べる。再生速度も変えられるため、英語が苦手な生徒は、遅めから始めて徐々に速くするなど自己調整を図ることができる」。

「個別最適な学び」ができるようになることは、森下先生も指摘していた点で、学習者用デジタル教科書の大きな強みといえそうだ。角先生と小林先生は「New Words」や「フラッシュカード」なども日常的に活用しており、「知識・技能の定着」という点でも役に立っている」と口をそろえる。



「フラッシュカード」の画面。

ICTが得意ではないという角先生だが、学習者用デジタル教科書への抵抗感はなかったのか。この点については「初期設定さえやってもらえれば、さほど難しくない。わからないことがあれば周囲の人や子どもたちに聞けばよいと思っている」と言う。続けて、デジタル化のおかげで掲示用のフラッシュカードを作成する手間がなくなり、業務負担が軽減されたとも話す。

文部科学省は、英語の学習者用デジタル教科書を希望する小・中学校に無償提供する実証事業を行っているが、これによって現場の状況がどう変わるのか、注目が集まる。

いつも・ちょっと・トラブル

ICTを 生きた学びに

1人1台端末が導入されたことについて、肯定ばかりでなく、否定的な声も聞こえてきます。それらは次の五つに集約できます。

①「端末が壊れる」問題

使用頻度が高ければ、当然ながら壊れる確率は高まります。高価な機器の使い方を児童・生徒が学ぶ貴重な機会であると考え、大人が温かく見守ることも必要だと思います。

②「学習効果」問題

ICT活用の目的の一つは、情報化社会で生き抜く力をつけることであり、教科学習の効果のみを期待するものではありません。ICTを使えば必ず学力向上が見込めるわけではなく、その使い方が重要となります。

③「健康面への影響」問題

成長期の児童・生徒が情報端末を使用する場合、大人以上に健康面への留意は必要です。しかし、学校での端末使用を控えたとしても、生徒が学校外でスマートフォンなどを使用する時間はそう大きく変わらないでしょう。だからこそ、学校で正しい「使い方」を身につけさせ、ネット依存などの危険性や健康への悪影響について学ばせるべきではないでしょうか。

④「ネット接続禁止」問題

インターネットは危険であるという理由で、児童・生徒がネット接続できないように設定している学校もあります。「交通事故の危険性があるから、安全性を重視して通学を禁止にする」というような極論は、生産的ではありません。



ん。交通ルールと同様に、ネットの世界にも、自分たちを守るために守るべきルールがあることを教えるべきではないでしょうか。

⑤「機器トラブル」問題

授業中に起きたICTのトラブルは、問題解決の方法を学ぶ生きた教材です。Wi-Fiが途切れたって、端末がうまく動作しなかったって、それをクラス全体で解決することも学びになります。

いずれにしても、ICT活用でいちばん大事なのは、どんな力をつけさせたいかを考えることです。つまり、ICTを教師がとまどいなく使えることよりも、試行錯誤しながらも児童・生徒自身が活用していくことが重要になります。「どんな力をつけさせたいか」「どんな授業がしたいか」という根源的な思いに立ち返って、学びの場にICTを取り入れていってみてください。



なか がわ ゆう や
中川右也

三重大学教育学部准教授・博士(教育学)。
光村図書 中学校英語教科書『Here We Go!』編集委員。著書に『英語のしくみと教え方 ころこ・ことば・学びの理論をもとにして』(共著・編／くろしお出版)など。

Let's enjoy! Small Talk Lesson 3

[本日のトピック: 季節・行事]

株式会社イーオン 窪田 遼

はじめに

Hello, everyone! I hope this finds you well. I am Ryo Kubota from AEON.

今回は、児童と児童が対話をする、6年生向けのSmall Talkを取り上げます。児童どうしのSmall Talkでは、すぐに文でのやり取りが続けられるわけではありません。そのため、活動に入る前に、先生と先生、先生と児童とのやり取りなどを通して、モデルの提示を丁寧に行うことが大切になります。ここでは、活動前に準備しておきたいことや、モデルとなる先生どうしのやり取りを中心にご紹介します。

“Don't explain. Just show it.”

何かの活動を行うとき、説明を重ねるほどに学習者が混乱していくのが、英語で授業を行う際の難しさです。そこでイーオンでは、可能なかぎり説明を省き、代わりに例を見せるという、“Don't explain. Just show it.”の考えのもと授業を行っています。この考え方で、Small Talkの内容についても、英語での説明はできるだけ省き、実例を見せるようにしましょう。具体的には、ALTをT2として、モデルとなる対話を行うという方法が考えられます。こうすることで臨場感のある例を見せることができます。

ALTと行う事前準備

ネイティブスピーカーであっても、とっさにはアイデアが浮かばなかったり、不必要に難しい話をしてしまったりすることがあります。授業前の5分間でもよいので、T2との打ち合わせは必ず行いましょう。その日のSmall Talkの目的やトピックと、「対話例を見せたい」ということを事前に伝え、話す内容を考えておいてもらうことが大切です。

ALTとの対話は大人どうしのやり取りですから、丁寧表現を使うことでより円滑なコミュニケーションが図れます。以下に例を示しますので、これにならって事前打ち合わせに挑戦してみてください(トピックに応じて、下線部を入れ替えましょう)。

For today's Small Talk, I would like to have the students talk about their favorite seasons and review expressions about some activities. In the class, could you be my partner and show them a model of the conversation together? I am going to ask you, "What is your favorite season?" and "What do you enjoy in the season?" So, please answer it with your own idea. Then, could you ask me back the same question?

今回のトピックとSmall Talkの流れ

今回は、『Here We Go!』6 Unit 2 Welcome to Japan. で学習する、季節や行事と、そこで行えることに関わる表現について、復習することができるような活動をご紹介します。

文部科学省「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」(p.84)には、「相手の話した言葉を繰り返して話し手が伝えたい内容を確認したり、相手の話したことに何らかの反応を示したりすることで対話は続く」とあり、このための基本的な表現の定着を図ることが、Small Talkを行う意図として位置づけられています。そこで、Small Talk例には、そうした表現も取り入れてみました。

全体としては、以下のように五つのステップを踏んで進めるのがスムーズだと思います。

- ①トピックの導入
- ②T2とのやり取りによるモデル提示(例1)
- ③児童どうしのやり取りによるモデル提示(例2)
- ④児童どうしのSmall Talk(例3)
- ⑤フィードバック

例1 T2とのやり取りによるモデル

T1: Good morning, Steve. How are you?
T2: I'm good and you?
T1: I'm fine. Thank you.
Well, what is your favorite season?
T2: My favorite season? I like winter.
T1: Winter? Really? What do you enjoy in winter?
T2: I enjoy snowboarding in winter. I'm good at it.
T1: I didn't know that you are good at snowboarding.

T2: How about you, Keiko? What's your favorite season?
T1: I like spring. I enjoy seeing cherry blossoms in spring.
T2: I see. Cherry blossoms are beautiful in Japan.

例2 児童どうしのやり取りによるモデル

T1: Hiro, what's your favorite season?
S: I like summer.
T1: I see. What do you enjoy in summer?
S: I go swimming. I like festivals.
T1: Great! Summer festivals are fun.

例3 児童どうしのSmall Talkを促す呼びかけ

T1: Just like this, let's talk about our favorite seasons. Make pairs. Ask questions to each other. You have 3 minutes. Let's begin.

次回以降は、児童どうしのやり取りに対してどのような支援ができるかについて、お伝えできればと思います。



Small Talk 例の音声はこちら

窪田 遼 くぼた・りょう
株式会社イーオン 法人事業本部
学校教育課 専任講師
留学経験なしでイーオンに入社し、イーオンスクールでの教務主任を経て、2016年6月より現職。
全国の自治体での教員研修を担当。特に、小学校教員への指導には定評がある。
J-SHINE 小学校英語指導者資格保有。



子どものためのBOOKGUIDE

— 10 —



TAKE ME OUT TO THE YAKYU

著者: Aaron Meshon
出版社: Simon & Schuster

こではこれまで語数の少ない絵本を紹介してきました。しかし、語数が多くてもわかる英語の文章はあります。例えば、よく知っているテーマや内容のものです。さて、今回は「野球」の日米比較絵本を。

これはおじいさんと野球観戦に行った男の子の一日を描いた絵本です。左のページがアメリカで、右のページが日本。こんな感じです。

【(左)In America, Pop Pop(※) also gets us hot dogs and peanuts before we find our seats.【ホットドッグと、ピーナッツと、入場券の絵】(右)In Japan, Ji Ji also gets us soba noodles and edamame before we find our seats.【ラーメンと、枝豆と、チケットが表示された携帯電話の絵】

【(左)In America, we cheer: 'GET A HIT!' 'GO FOR IT!' 'WIN!'/(右)In Japan, we cheer: 'KATTOBASE!' 'GANBATTE!' 'DO YOUR BEST!'/(どちらも、球場で応援する観客の絵)

やがて試合が終わります。(左)My favorite American

team won!/(右)My favorite Japanese team tied!そして、(左)After the game, Pop Pop gets me my favorite player's jersey./(右)After the game, Ji Ji gets me my favorite player's towel. こんなふうに、わからない単語はあっても、なんとなく意味がわかってしまうところが楽しい。また、日米の違いがうまく表現されているうえに、男の子の気持ちが生き生きと描かれているのがすばらしい。

巻末には「Pitcher/Toushu どうしゅ」「Cheer/Ouen おうえん」「Snack/Oyatsu おやつ」といった対訳表もあって便利です。日米のルールや歴史の違いが短くまとめられているのも、おもしろいと思います。

途中で「In Japan, we ride to the game in a short red bus that turns into a train.」とあります。「途中から電車になるバスなんてないぞ」と思って調べてみたら、これは「名古屋ガイドウェイバス」のこのようです。アメリカの絵本に教えられました。

※Pop Popは一般の辞書には載っていませんが、おじいさんを親しみを込めてよぶときに使うことがあるそうです。

金原瑞人

かねはら・みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど580点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『Here We Go!』(光村図書)の編集委員を務める。

光村図書
YouTube公式チャンネル

新コーナー

Here We Come!

英語授業づくりお悩み相談室

英語に関わるすべての先生方に向けて、この春、YouTubeで新コーナーがスタートします!

講師に教科書編集委員の太田 洋 先生(東京家政大学教授)をお迎えし、日々の授業づくりにまつわるお悩みに一問一答形式でお答えいただきます。光村図書が開催したオンラインセミナーで実際にいただいたご質問など、学校の現場から届く声をもとに、明日の授業づくりのヒントになる情報を動画でお届けします。

リーディング教材、新出語句が多いのが悩みどころです。どのように工夫したらいいでしょうか?

スピーキングやライティングなどのアウトプットの力を骨太に育てていくために大切なことは何ですか?

5ラウンドとはいかなくても、ストーリーを最大限に生かす指導法はありますか?



東京家政大学教授

太田 洋

1分程度の気軽な動画です。すき間の時間にぜひご覧ください。➡



お悩み大募集!

本コーナーでは、先生方からのお悩みを大募集しています。英語の授業づくりにまつわる内容でしたら、どんなご質問でもかまいません。以下の件名・本文をご記入のうえ、メールにてご連絡ください。
●件名:「Here We Come! お悩み」
●本文:①お名前、②校種、③担当学年、④太田洋先生へのご質問
●メールアドレス: eigyosuishin@mitsumura-tosho.co.jp